

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078100080		
法人名	有限会社 里心		
事業所名	グループホーム里心		
所在地	福岡県八女市黒木町桑原277-1		
自己評価作成日	令和5年10月6日	評価結果確定日	令和6年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻 4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和5年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>里心全体の方針として、「接遇」「活動性」「食事」に力を入れています。                  「接遇」…お客様に気持ちよく過ごして頂くための、専門性の高い接遇が出来る。声掛け・言葉使い・表情などに気を付けてます。                  「活動性」…行事を多く取り入れる。心身機能の向上・生活意欲の向上・認知症の進行予防・社会性の維持を目指す。                  「食事」…食事を美味しく召し上がって頂く為、彩・味付けに気使っています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム里心」は2ユニットの事業所で開設後すでに22年になる。平成28年に現在の場所に事業所を新築移転した。母体の法人は、当事業所とは別の場所で、有料老人ホーム、デイサービスを運営する。グループホームのみ堀川バスの営業所に近く、交通の便も良いが、周囲は静かでのどかな環境にあり、川沿いや津江神社などの散歩コースなどは季節を五感で味わう事ができる。移転に伴い、「心安らぐ場所」「信頼のある場所」をコンセプトにした新しい理念を作成、「接遇・活動性・食事」の充実力を入れている方針のもとで、温かい思いやりのあるケアを、職員が意欲的に一丸となって提供している。外国からの特定技能実習生の受入、端末(タブレット)を利用したの記録入力、「手作り」による食事の提供など、意欲的な取組が随所に見られる。コロナ禍により一時期は外出や家族の面会などに制限を設けたりもしたが、ようやく落ち着き、地域との交流の充実も図っている。今後も一層の発展が期待できる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の職員会議にて管理者より読み上げ、全スタッフ共有し実践している。玄関に理念と方針を掲げている。	「心安らぐ場所」「信頼のある場所」をコンセプトにした理念は、平成28年の事業所移転に伴い新しく作った経緯がある。またその理念のもと、事業所として「接遇」「活動性」「食事」の充実力を入れるという方針がある。フロア内に掲示し、毎月1回の職員会議で管理者が読み上げることにより、職員はその意味を咀嚼して共有し、また振り返りも行いながら、「寄り添ったケア」の実践に取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年里心祭りを開催し、地域の方に喜んで頂いていたが、新型コロナの影響にてここ三年出来ていない。	町内会に加入しており、回覧板や広報を閲覧、関係者と話をする機会がある。社協が中心となって、他の事業所と合同で行っている「認知症カフェ(年2~3回)」を開催、最近では高齢者疑似体験を行って、反響があった。近くの体育館で行われた地域の祭りには、蒸気機関車の展示もあって盛り上がるなか、利用者も参加をしている。日頃から散歩コースでの声掛けなどもなされるなど、地域との交流を深めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	R5年6月より、地域の方の訪問や運営推進会議等で認知症とはどういうものを伝えている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R5年6月以前は、入居者様に対しどのような行事が好まれるか等話し合う中で、利用者様へのサービス向上ができていたが、新型コロナの影響で資料のみ配布して電話にてご意見を聴取していた。6月以降は、運営推進会議をホームで行い、報告しながら意見をいただき活かしていくように業務改善に取り組んでいる。	コロナも落ち着きを見せており、本年6月以降は2ヶ月に1回の再開は今のところ定着している(7・9・11月に開催済み)。区長、民生委員、行政(市福祉課)、包括職員、社協支所職員等の参加がある。議事録は玄関の傍らに掲示し開示している。家族に対しては、議事録ではなく、議事の内容をまとめたものを「里心だより」に要約して掲載して、送付している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報の共有を行いながら、協力関係を築けている。	市福祉課や包括の職員が運営推進会議に参加する。介護認定の更新申請は直接、事業所職員が八女市本庁へ赴き手続をする。生活保護受給者の件では市保護課とのやり取りもある。ネパール・ベトナムより6名の特定技能訓練実習生を受け入れている。その他、困難事例を相談したり、事業所の空き情報を伝えたりするなど、日頃から密接で円満な協力関係が築けている。
				コロナ禍との睨み合わせになるが、以前は系列事業所と合同で開催し、近隣住民の参加も見られた「里心祭り」は、本年11月に開催予定だが、事業所内で人を招くことなく開催の予定と聞く。地域との交流を深める意味では良い機会と思われ、来年度以降、徐々に広げていけたらよいと思います。また現在、ボランティアの受入、老人会による踊りの披露、保育園児の訪問などは見合わせが続いており、再開に向けての検討をお願いしたい。畑での作物の生育などにボランティアを募るところから始めてみてはいかがでしょうか。
				現状での取組内容や問題点、運営やサービス向上につながる提案に対する検討をしたいところだが、なかなか意見が上がらないと聞く。行事と絡めて開催したり(防災訓練、昼食の試食など)はいかがでしょうか)、スポットでテーマごとに出席者を選んだり(訪問看護、薬剤師、リハビリの方、消防の方など)はいかがでしょうか)、可能であれば開催の曜日や時間をずらしたりして、参加を呼び掛け、意見を抽出して、さらに会議が運営に活かされていく事に期待したい。

R5.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。身体拘束マニュアル周知や年2回ほどの身体拘束の研修を行っている。	身体拘束防止委員会(年4回)や、内部研修会(年2回)を開催する事で、職員は、「身体拘束ゼロ」の事業所方針や、スピーチロックも含めたところで拘束についての理解を深めている。マニュアルには、やむを得ず発生した時の対応も載ってはいるが、実際には身体拘束は行われていない。玄関は日中施錠していないが、離脱傾向のある利用者には職員が目配りを行い、声掛けや誘導を行う。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が絶対にならないように、ミーティングでの内部研修を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネはある程度は理解しているが、職員も内部研修行いおおまかな理解はしている。	現在1名が成年後見制度を利用している。現場での実例を通して、加えて研修を行うことで、職員もおおまかな理解はできている。閲覧用ではないが、パンフレットや案内も事業所に備えている。また相談があった時は管理者が窓口となり、その後包括や社協など外部機関へつなげる体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、一通り説明をした後、分かりにくい点や納得いかない点について詳しく説明し、納得いただいてから契約して頂く。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見は随時傾聴し、ご家族様の意見は面会時や電話にて聞けるようにしている。	家族会はなく、また意見箱への投函もない(一筆箋を送付して、返信もお願いするなどの努力はした)が、コロナ禍も落ち着き、面会の制限も幾分解除して緩やかになり、家族からは日常的には面会時に直接、あるいは電話などで意見や要望を個別に話される事が多くなっている。3ヶ月に1回「里心だより」を送付しているが、コロナ禍で家族も利用者に出会う機会が減ったのを機会に写真付きにしたが、これは今後も続けていく方針。利用者からは日頃の会話の中で聴き取りを行い、表出が困難な利用者からは家族の協力も得るようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や個人面談にて聞いている。	会議時や年1回の個人面談時だけでなく、日常的に職員が意見や提案を言いやすい環境にあり、また管理者はすぐに改善などの対応を行ってフィードバックをしている、必要な事項については、朝・夕の申し送りや月1回の職員会議の席などで全体に共有するように努めている。管理者は適宜個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップに応じた労働条件を明記している。		

R5.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	誰であっても、希望があれば面接を行った後検討している。	20～70歳代の職員が就労していて層が厚い。外部研修への参加や資格取得に対しても事業所は支援を行っている。希望休の取得、休憩時間・場所の確保もなされている。ネパール・ベトナムより6名の特定技能訓練実習生を受け入れていて、徐々に重要な任務も任せられつつある状況だが、専門用語をはじめ、コミュニケーションや指導のうえでの難しさを周囲は感じながらも、チームとして前向きに取り組んでいる。職員はそれぞれが個性や能力を発揮して、生き生きと仕事に従事している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時内部研修を行っている。	人権に関しては、外部研修後の内部への伝達研修に加え、ネットから検索した内容や、社協や包括とのやりとりから学ぶこともあり、職員も認識し、日々のケアの中で、人権を尊重した動きや啓発活動に繋がる対応が見られている。今後も、講師派遣やDVDの活用も視野に入れながら、前向きに取り組む予定がある。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は外部講師を呼び研修をし、研修後はレビューを書いたが、ここ1年は内部研修を行うことで、ケアの質を高めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	部会の研修等に、参加している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人・家族に希望を聞いた上でケアプランを立案し、プランに沿って実践している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の悩みを聞き、気になること等あれば、電話相談や意見箱で意見も受け付けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に対し何が一番必要かを見極め順番にサービスを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、スタッフ共に家族のように時間を共有している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の意見、ご家族様の意見双方の立場を考えて、本人様を支えている。		

R5.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別ケアで行きたい場所や、自宅等に行けるように心がけている。	個別ケアではあるが、かつて花を眺めに行った場所とか、自宅の近くまで車で出掛けて、思い出話にふけることがある。事業所は訪問理美容の受入をしており、それが新しい馴染みになっているが、家族が美容師で毎回家族がカットしている利用者もいる。家族と一緒に外出することや、顔馴染みの友人の来訪や電話でのやりとりなどを事業所も支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人で過ごすことを好まれる利用者様もいらっしゃる為、すべての利用者様が支えあえるような環境にはできていない。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、相談を受け付けていることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人聞き取りができない場合はご家族に聞いたりしながら、意向を把握している。	入居開始時に、ケアマネジャーが本人・家族および関係者より、希望などを聴き取り、独自のアセスメント表にまとめている。その後、日常的に思いや意向の把握に努め、カンファレンスでの話し合いやモニタリングを通して、アセスメント表に加筆・変更を加え、職員が共有する。思いの表出が困難な利用者からは、表情の変化などを見逃さないように努め、家族の協力も得るようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始に至るまでの生活歴等は、入居時に家族から、入居後に会話の中から聞き出しきちんと把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を、穏やかに暮らせるように配慮している。有する能力がある利用者様については、お手伝い等行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に一人一人のカンファレンスを行い、必要に応じて介護計画の変更をご家族様の了承を頂き、変更する。	職員は担当制になっており、帳票には各利用者の個別の目標がわかりやすく記載され、認識につながっている。各担当者が中心となって日々の達成目標の達成状況を確認する。カンファレンスを行い、また随時医師や訪問看護師、家族ら関係者から意見をすくい上げ、状態変化時もしくは最長年1回、ケアマネジャーと計画作成担当者が介護計画書を作成する。内容は申し送り等で職員に共有されている。帳票には目次があり、繰越時のチェックもなされ、誰が見てもよくわかるような整理が施されている。	

R5.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を些細な変化も逃さず記録し、問題解決に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、可能な限り本人の意思を尊重し、柔軟な対応を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力施設での行事に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間のオンコール体制を築けている。	入居開始時にこれまでのかかりつけ医の継続を選ぶことができる旨説明をするが、協力医療機関(歯科を含む)からは訪問診療(月1回)、訪問看護(週1回に加えて、別途精神科からもある。事業所にも夜勤専門の看護師が勤めている)が行われ、日常的な健康管理、緊急時の対応もできる。他科受診は家族が行うが、事業所が支援する時もある。受診の経過などは職員で情報を共有、家族にも逐一連絡を入れており、適切な診療を受けられることで安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日の訪問看護に来てもらい、病気の早期発見に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はご家族様と一緒にスタッフも同行し現状を病院に伝えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から重度化・終末期の話をご家族様に考えて頂きながら、終末期を迎えて頂くよう配慮している。	重度化・終末期を迎えた場合も事業所のできるまでの支援を行う、という指針があり、入居開始時に説明を行い、書面にて同意を得る。状態が苦慮される時は、なるべく早い段階から再三にわたって、医師らを集めて話をし方向を決定、改めて同意書を徴求して、事業所としてチームで支援を行う。日頃より研修を通して理解を深めている。	

R5.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回応急救護の講習に参加している。	
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を地域の方にも参加してもらったかったが、新型コロナの影響でホームのみで行った。	年2回の避難訓練(うち1回は消防署が立ち合う)は、火災に対する対応を昼夜想定で行い、AEDや消火器の操作方法の指導、避難経路や担当の確認なども行う。近くを川が流れていることもあり、水害に対する認識についても触れる。地域住民の参加はなかったが、区長を通して呼びかけは行った。水・食料の備蓄の用意と併せて、その量の調整や期日管理も行っている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対し方言やなまりはあるが敬語を心掛けているが、利用者様との関係性を考慮した場合はそのかぎりではない。	毎年定期的に接遇やマナーについての研修を行い、また日頃から職員相互にて注意し合っている。個人の尊厳を大切にして、プライバシーを損ねない対応を行うように努めている。写真等の使用については、書面にて同意を得ている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助をする前には、声掛けし同意後行う。意思疎通が取れない場合は声掛けを行うことを徹底している。	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の基本となる1日の流れはあるが、その時に応じた、対応を行っている。	
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けと、関われる利用者様には感染予防対策しかかかって頂き、食事の時間を楽しいものにしていただいている。食事前には嚥下体操をして、ムセなく美味しく食べてもらう様になっている。	一時期は業者から届く調理済みの食材を加熱して提供するスタイルを採用した時期もあったようだが、本年に入ってから、事業の理念を支える3つの方針の中に「食事」という項目があり、利用者にも毎回満足していただくために、また職員の調整がついたこともあって、全面的に「手作り」として、利用者にも喜ばれている。メニューの決定(利用者の意見を反映する)、食材の買物、調理まで、事業所にて職員が行っている。形態(粥や刻みなど)の変更や、療養食への対応もできる。毎回、品数が多いうえにボリュームもある(完食される利用者も多い、と聞く)。盛り付け、片付けなどは利用者も手伝う。畑で収穫したネギなどの野菜、近所の方からおすそ分けされたミカンなども食卓に並び、話のタネになる。職員は同じテーブルで一緒に食べないが、見守りや介助を行う中で、食事が楽しいひとときになるように努めている。一日の生活の中で、台所から食事を作る音やにおいがして、それでわくわくする感覚を大切にしたい、という事業者側の気持ちは十分に伝わってくる。毎月10日には手作りの誕生日ケーキを用意し、また行事(イベント)食を提供することもある、とのこと。

R5.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の意思を尊重し、常に清潔感のある身だしなみに心掛けている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた、食事量・水分量を提供している。欲しいと言われた際は、制限のある方でなければ、食べすぎない程度で十分に提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必須だが、嫌がられる際はうがいのみ等と無理に行わない。義歯の方に関しては夕食後外される方は外して頂き、翌朝朝食前に着けて頂く。週1回はポリドント消毒をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合った、排泄介助を行っている。オムツ、紙パンツその人に合った物を使用し対応している。	それぞれの利用者の食事・水分の摂取量と併せて、排泄の時間や内容、汚染の状況などまで記録、そのパターンを職員が把握して共有することに役立っている。各ユニットに2ヶ所ずつの介助用トイレがあるが、それ以外にもポータブルトイレを設置することで失敗も減り、また適切なタイミングで誘導を行う事で、紙パンツ等の使用の改善に繋がるなどの効果も現れている。対応にはプライバシーの尊重に注意している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分強化・下剤での対応・腹部マッサージをして便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の好き嫌いはあるが、極力入りたい時に入浴して頂く。入浴時の体調を観察しながら、週3回入浴していただいている。	基本的には週3回、午前中の個浴だが、柔軟に対応している。拒否のある方にはタイミングや担当を変えて促すようにしている。一方のユニットは家庭用のユニットバスだが、もう一方のユニットは機械浴(リフト浴)になっており、利用者の状態に応じてユニットを超えて利用することがある。シャンプーや石鹸の持ち込みは自由で、ゆず湯や菖蒲湯なども行う(入浴剤は不評にて使用しない)。脱衣所には暖房の設置がある。職員はコミュニケーションを深めながら、皮膚の管理も行っており、そのなかで楽しい入浴のひとつを過ごせるよう配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は20時に設定しているが、それ以降でも本人の希望にて就寝してもらっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬に関しての知識が完璧ではない。		



R5.11自己・外部評価票(グループホーム里心)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフより提案したり、個人でしたいことを楽しみながらされている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午後は個別での散歩の時間を設けている。またドライブなど、その日の状況で行ったりしている。要望のあったことは可能な限り実現している。	コロナ禍が落ち着いたこともあって、個別もしくは少人数ではあるが、散歩(近くにお参りを行う神社もあり)に出かけたり、車を使って季節の花見(藤・桜・コスモスなど)やグリーンピア八女までなどのドライブをする機会を増やしている。ウッドデッキにてティータイムを兼ねた外気浴を行ったり、畑での作物の世話をしたりもする。家族から一緒にお出掛けをさせたい、との希望があれば事業所も支援をする。本人や家族からの希望をなるべく取り入れるようにして、日常的な外出の支援に努めている。	事業所での外出を計画する際は、必要に応じて家族や地域の方の協力も得ながら行っていかれたら良いと思います。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望にて金銭所持している方もいるが、ご家族には無くなった際の対応はしていないことを伝えている。買い物時はスタッフが管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話して頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾ったりしており、季節感のある壁紙作り等、穏やかな空間作りを心掛けている。	両ユニットは左右対称に作られており、中央にテラス(ウッドデッキ)があり、ベンチや鉢植えなどが並ぶ。採光の良いリビングにも季節の花や観葉植物、利用者の作品などが飾られ、季節を感じる事ができる。利用者は思い思いの場所でゆっくり過ごす。事務室からは、リビング・通路・居室がほぼ一望出来る作りとなっており、目が行き届く。不快なおい音をを感じる事もなく、清潔で開放的な空間が広がっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを並べ、皆さんで談話したりしながら、楽しんでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様の好まれるものを置いている。	居室のドアには、会長が用意した材木に毛筆で書かれた表札がある。全室フローリングの洋間で、室内は広く明るく、安全を重視したレイアウトに職員が工夫しており、掃除も行き届いている。ペット・筆筒・スチール棚・エアコンが設置されていて、その他の持ち込みは自由。遺影やテレビやドレッサーやぬいぐるみ、写真など、馴染みの物や使い慣れた物に囲まれた個性的な部屋で、居心地良く過ごす事ができている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建築計画の時点で、工夫をしてあり、手すりや広さなど安全な環境になっている。		